第１回飯南町教育環境基本方針検討委員会　要点
【委員会で出た意見】

令和４年６月２７日

児童生徒数の減少・UI ターン・まちづくりについて
① 出生数は毎年 20 人台にとどまっている。定住については毎年 40 人程度移住していただいている状況。高校の魅力化事業に関しては、町内生徒が減少する中、町外からの生徒確保ができている。 ② 志々地区については子どもたちの減少が著しい現状であり、一番ＵＩターンを増やしていく必要がある厳しい地域である。 ③ 放課後の子ども支援は保護者の方からの要望で開始したが、感じるのは、「保護者のため」ではなく「子どもたちのため」という観点からも考えていかなくてはならない。 ④ 子どもが飯南町に帰ってこようかと思ったときに、少しでもよいまちづくりができていればと考えている。 ⑤ さつき保育所は５人しかいないが、こんなに笑顔で日々過ごせるということは、本当に先生たちの努力や周りの人たちの助けがあってのことだと思い、感謝している。 ⑥ 人口が少ないところを探しＩターンをした。少ないならではの観点で話をすると、移住したからよかったというわけではないという思いもある。子どもたちもいまだ生活に慣れずもがいている最中で不安も抱えている。飯南町の良さを感じて継続して住み続けたいというのが親の願い。会議に参加させていただいて、子どもたちにも教えていけることがあるのではないかと思っている。 ⑦ U ターンした際、昔に比べるとさみしくなったなと感じた。また、事業の跡をついだが、助成金なかったのが残念だったので、そういった助成金があれば個人経営者は助かるし UI ターンも増えるのではないかと思う。 ⑧ 志々地区は非常に児童数が少なく、小学校の存続自体に関わるような人数である。以前にも統合の話が出たりしたこともあるが、今回の資料の生徒数予測データをみて衝撃をうけた。志々小学校のみならず、他の小学校・中学校の生徒数も減少するなかで、今後どうしたらよいかこの会議での意見をきいて、保護者の方にも意見を聞いたりするなど、自分が架け橋になってやっていきたいと思う。 ⑨ 飯南町は、子育て世代が移住したい町であり、素晴らしい地域。教育環境も、現状でも良い部分もある。しかしその反面、確実に子供の数が減ってくる。他の町も同じ状況かもしれないが、地域を愛する人材を輩出していながら、児童が減っている現状がある。これについては、情報を集めて分析する必要があると感じた。 ⑩ 広い観点から、持続可能なまちづくりに必要なものは何か考える必要がある。

教育・子育て・保小中高
① 子育ての環境も一昔前に比べるとはずいぶん変わってきた。保小中高のつながりや小学校の一人ひとりの子どもへの支援等、素晴らしいと思っている。また、飯南町は高齢者が多いので、高齢者のパワーをもっと教育に活かしてほしいと思う。 ② 飯南町はのびのびと子育てできて良い点はたくさんあるが、勉強がすべてではない。この変化する世の中で一人で生きていけるのか親として不安な部分もある。松江市では、お昼寝の時間にスイミングや英会話教室に行けるという取り組みもあると聞いた。飯南町においても多様な教育ができればと思っている。 ③ 自分が子どものころは地域で子育てしてもらっていたと感じていたが、子育てしやすい町といいつつ、今は色々な家庭があって、つながりが本当に大事と思って過ごしている。 ④ この先も教育環境は大きく変わっていくと思うが、そのなかで、私たちの考え方もおそらく変えていかなくてはならない部分もあると考えている ⑤ 教育現場のものからすると、生徒自身をいかに知っているかが重要と思う。そのことが生徒数増加につながったり、学力向上につながると経験から感じている。 ⑥ なかなか学校に行きにくい子がいることを知った。勉強も大事だが、将来的には、自分で働いて生活していく力が必要と思う。子ども達が、社会に出ていける力をつけていけるようにならないといけないと感じている。 ⑦ 飯南町の保小中高一貫教育が、どういうことをしているのかあまり見えないと感じている。そうしたことがもっと見えて発信ができれば、UI ターンの方にもわかりやすいのではと思う。 ⑧ 中学校や高校の部活動、スポーツ少年団に関しても、人が少なくなるとできなくなることも多い。それに関する支援ということも今後考える必要があるのではないかと思う。 ⑨ 子どもの育ちに関して一番重要なことは、家庭で基本的な生活習慣を身につけることと思っている。健康増進計画とも連携しているのかなと思うが、家庭で生活習慣を身に着けることに対して、学校や行政から支援いただければと思う。 ⑩ 保育所の人数も少なく、集団としての関わり方・集団のなかで育つ部分を先生たちも苦労しておられる。 ⑪ 保育所へ出るまでのお子さんにも子育て支援で関わっているが、もう少し環境が充実すれば良いと感じている。支援センターは週 1 回で、10 時から 11 時半の開設。他の市町村では毎日開設しているところもあり、もう少し充実する必要があると感じている。 ⑫ 他の中学校と違う部分について保小中高の連携とれていると思う。特に小学校と中学校の連携がとれていると感じている。教員の連携もできている。中学校と高校は

どうかといえば、こちらも毎月会議を開催して連携している。

⑬ 生命地域教育について、こちらは教育魅力化コーディネーターの支援で地域に出かけて話を聞く活動など行っている。特に３年生が、自分たちが飯南町で幸せになるためにどうすればよいか１年かけて考え、プレゼンする。これは非常に地域と密着した活動で、ありがたいなと感じている。

⑭ ICT 教育推進の取組だが、子どもたちにとって学びやすい環境整備ができていると思う。

⑮ ICT を利用して、これが堪能になることが重要ではない。例えば２年生がプレゼンを行うときに原稿を必要としていないのは、資料を作成する過程で自分のなかで構成ができているから。操作が得意になることが重要なのではなく、自分の中で理論を組み立てて発信する力を養うことができていることが魅力と思う。

⑯ 心配なのは、人数が減って部活動が難しいこと。どのようにしたら子どもたちが自分のやりたいことをできるか、またご検討いただきたい。

⑰ 進路希望について、一人ひとり状況を確認した。これは、例えば１学年が数百人いる学校では不可能なことであり、飯南高校の良さは、全員について進路実現のためのアプローチを考えることができること。

⑱ 大学生の状況を普段みていると、大学の勉強についていけない・精神的な理由で退学する学生が大体１割くらいいる。その学生たちは、どちらかといえば大学までは順風満帆であったようだが、大学入学以降、環境が変わって対応できなくなっているように見える。つまり学力と大学での暮らしは比例していない。多様化についていけない学生の存在があるが、いかに復帰できるか。再生力というのが重要なのではないか。個人の力のみならず、相談機関等も重要と感じている。

検討委員会について

① 飯南町の教育の在り方を検討する時期にきている。この検討委員会でいただいた意見を答申していただき、それをもとに今後の飯南町の教育環境に関する方針を定めたいと考えている。

② 学校教育によせて話が出ていると感じるが、「教育環境」というのであれば学校教育もだが、家庭教育・社会教育も重要である。この会議は、まち全体で、子どもたちにとってどういう環境が良いのかを考える会議と考えている。

③ 飯南町の教育環境のなかで良い部分をご指摘いただいたので、委員の皆さんにご紹介していきたい。

④ 児童・生徒数が減少している現状があり、審議していく中で小学校もだが、中学校がどうあるべきか規模だけで語るべきではないが、議論していく必要がある。